

地産地消・農業「調べた」「わかった」 小学生特派員 校内で発表会



**私たちが一生懸命調べて思ったこと
感じたこと みんなに知ってほしい**

今回の特集で、広報紙づくりに参加した小学生特派員（以下特派員）10人は、自主的に参加してくれた子どもたちです。

特派員たちは、9月中旬から11月にかけて、農家の人たちが働く畑へ取材に行きました。取材の際、実際に農作物を収穫させていただくなど、貴重な体験をしたグループもあります。

晴れた暑い日や雨の日、風が吹く寒い日の取材もありましたが、特派員たちは、ノートに一生懸命メモをとり、後日、レポートをまとめてくれました。

11月10日、特派員たちは、同じ5年生の児童たちに、自ら取材して分かったこと、感じたことを知ってもらおうと、山手小学校で発表会を行いました。

当日は、取材をさせていただいた高井正敏さん（トウモロコシ）、長尾光紘さん（ナシ）、小池和昭さん（カキ）、また、市学校給食センター栄養士の永藤亨子さんにもきていただき発表を聞いてもらいました。

特派員たちは、農家の人たち

がどんな思いで野菜や果物を作っているのか、また、農業の苦労や喜びなどを、みんなの前で発表しました。日ごろ農業を勉強している児童たちは、真剣に耳を傾けていました。

発表を聞いて…

長尾さんは、「農業の苦労を知っていただけで大変良かったと思います。今後は、ただ食べるだけでなく、地元のごような人たちが、どのような思いで農作物を作っているのかを考えて食べてください。きつともっとおいしく食べられます」と感想を話していました。

永藤さんは、特派員の発表を感心して聞いていました。そして、「おいしい地元のナシやトウモロコシを給食で出すのは初の試み。11月に出すカキ、またこれから出てくるサトイモを使った給食を楽しみにしてください」と、いつも給食を心待ちにしている児童たちに話しました。



▶特派員の皆さんが一生懸命まとめたレポート



▲発表会に参加した農家の人たち



▲小学生特派員の発表を真剣に聞く児童たち